



記者会見資料

(県政)



しがCO₂ネットゼロ
ムーブメント

提供年月日：令和3年(2021年)11月16日
部局名：総合企画部
所属名：CO₂ネットゼロ推進課
係名：計画調整係
担当者名：中嶋、山元(夏)
連絡先(内線)：077-528-3490 (3490)

今年度創設

令和3年度 しがCO₂ネットゼロみらい賞の受賞者を決定しました!

本県では、2050年CO₂ネットゼロの実現に向けて、しがCO₂ネットゼロムーブメントを推進しています。この一環としてCO₂ネットゼロ社会づくりに関して、県内で優れた取組を行った個人や事業者、団体の功績をたたえ、取組の水平展開を図るための標記の表彰制度において、この度、今年度の受賞者を決定しましたので、お知らせします。

各部門の受賞者について

先進導入・実践部門

事業活動において先進的な設備の導入や創意工夫を凝らした省エネの実践等により、CO₂の排出量を削減する取組

- ◆アストラゼネカ株式会社 米原工場
- ◆甲陸ロジスティクス株式会社

※詳細は裏面をご覧ください。
※渡り廊下2階にパネル展示も
しています。

製品・サービス部門

社会全体のCO₂排出量削減に貢献する県内発の製品・サービスの開発

- ◆川重冷熱工業株式会社 滋賀工場 「ドライ式低NO_x水素専焼小型貫流ボイラ」
- ◆HIJ.株式会社 「サスティナブル木材乾燥庫【PARITTO II】」

地域づくり部門

CO₂ネットゼロ社会づくりを推進するための、個人や団体などが行う環境学習・普及啓発等の取組

- ◆近江八幡市桐原学区協働まちづくり協議会

表彰式について

しがCO₂ネットゼロシンポジウムにおいて、表彰式を開催します。

- 日時 12月11日(土) 14:00~17:00
- 場所 ピアザホール(滋賀県立県民交流センター)

※会場参加は事前申込制

※オンライン配信有(配信リンク・講演詳細は県HPから)

※感染症対策を講じて実施します。今後の感染拡大状況により開催方法が変更になる可能性があります。



お申込は
こちらから
←

受賞者の取組について

先進導入・実践部門

■アストラゼネカ株式会社 米原工場

—徹底した省エネ化と、J-クレジット制度を活用した

グリーン電力への転換により実質CO₂を99%削減—

米原工場において省エネ委員会を設置し、10年以上前から工場設備の電化に取り組み、熱源として重油等の化石燃料を使用したボイラ等から効率のよいヒートポンプ式への転換を進めてきた。

令和2年度はエネルギー効率の高いコンプレッサの導入により、導入前と比較してコンプレッサ全体の電気使用量14%削減や屋外照明のLED化により、全体的なエネルギー消費量を削減。その上で、消費電力の100%に相当するクレジット（再エネ由来）の購入により、グリーン電力への転換を実現した。

また現在、工場の敷地内に太陽光発電を設置しており、2022年春から工場で使用する電力の20%を太陽光発電で賄う予定である。

※J-クレジット制度とは

省エネ設備の導入や再生可能エネルギーの活用によるCO₂等の排出削減量や、適切な森林管理によるCO₂等の吸収量を、クレジットとして国が認証する制度です。認証されたクレジットは、売買取引が可能になり、計画の目標達成やカーボン・オフセット等様々な用途に活用できます。

■甲陸ロジスティクス株式会社

—BDF（バイオディーゼル燃料）を自社倉庫の発電機に活用しCO₂排出量を削減—

2013年から太陽光発電事業や廃食油によるBDFの精製と活用など、地産地消型の再生可能エネルギーの創出と活用に取り組む。

令和2年度は自社倉庫のスポットクーラー用自家発電機と取引先温水ボイラのBDFによる運用を行う。給食センターから出る廃食油をバイオ燃料プラントで精製し、自社倉庫の発電機や取引先の温水ボイラの燃料として使用することにより、通常軽油を燃料とする場合と比較し、CO₂を削減した。

BDFによる運用にあたっては、燃料ラインの腐食防止のため、フッ素素材への交換、定期的にメンテナンスを行うといった、長期運用に向けての工夫をしている。

また、自社トラックのCO₂排出量削減に向けても、共同配送の積極的な導入や燃費向上のための運転状況の点数化などの取組を進めている。

※BDF（バイオディーゼル燃料）について

食用油として利用される菜種油等の植物油は、植物が成長する過程でCO₂を吸収しており、燃焼により排出されるCO₂は植物が枯死・腐敗する過程で空気中に放出される炭素と同等になることから、新たにCO₂を排出しないクリーンなエネルギーです。

製品・サービス部門

■川重冷熱工業株式会社 滋賀工場

「ドライ式低 NOx 水素専焼小型貫流ボイラ」

— 一次世代エネルギーとして期待される水素エネルギーの活用に向けた製品 —

水素は燃焼時に CO₂ を排出しないクリーンなエネルギーであるが、火炎温度が高いことから天然ガス燃焼時に比べて約 3 倍の NOx（窒素酸化物）が発生する。

本製品では NOx 排出量を抑えるために通常採られる、燃焼室への蒸気噴霧や排ガス再循環を必要としないドライ式バーナを搭載している。独自の水素と空気の混合方式により、省エネ法で定められた低空気比においても、天然ガス焚き並みの低 NOx を実現。蒸気噴霧がないため、蒸気出力や熱損失などの無駄がなく、また排ガスを再循環させる機器が不要なため、メンテナンス性が高まるなど、従来の水素燃焼ボイラと比べて低コストでの運用を可能にした。

水素は、電化による脱炭素化が困難な産業部門（原料利用や熱需要）等の脱炭素化に貢献することが期待されており、本製品は将来の水素社会を見据えた製品である。現在はソーダ業界など製造過程で発生する副生水素の利用が中心であるが、将来的には CO₂ フリー水素による運用が期待できる。

■HIJ. 株式会社

「サスティナブル木材乾燥庫【PARITTO II】」

— 太陽熱を利用した木材乾燥の省エネ化を実現する製品 —

木材を建材等に利用する場合、品質確保のために乾燥が必要である。本製品は、庫内の断熱性・気密性を高め、熱損失を大幅に減らす構造となっており、太陽熱とヒートポンプ熱源を組み合わせた乾燥により、現在主流となっている重油や灯油等を利用する蒸気加熱式乾燥機に比べエネルギー消費量で 89%、CO₂ 排出量においては 79.8% の削減が見込まれる。（※太陽熱を利用しているため、季節や天候などの条件により変動がある。）

本製品の特徴としては、太陽光の角度に合わせて曲線の大きな開口を設けており、太陽熱（赤外線）を庫内に多く取り込み、黒く塗られた傾斜のコンクリート壁や床面に蓄熱する。これにより、冬でも天気の良い日は、庫内温度が 50℃ を超え、真夏は 75℃ まで上昇する。太陽熱を受けることの出来ない雨や曇りの天候時や夜間に庫内温度が下がると、補助暖房のエアコンが庫内を加熱し温度を上昇させることで、庫内を高温に保ち木材の乾燥を可能にした。

CO₂ の吸収源対策にもつながる林業の省エネ・CO₂ ネットゼロ化への貢献が期待できる。

地域づくり部門

■近江八幡市桐原学区協働まちづくり協議会

—まちづくり協議会が主体となってCO₂ネットゼロを推進する取組—

2019年7月に、「まちづくり」の視点からCO₂ネットゼロの住民運動に取り組もうとする、全国で初めての宣言である「省エネ・脱CO₂まちづくり宣言」を行った。

協議会では、住民一人ひとりが地球温暖化を「自分ごと」として捉え、CO₂ネットゼロに向けた行動がライフスタイルとして暮らしの中に定着することを目指して活動を行う。

主な活動としては、地域住民向けの省エネ、熱中症予防、エコドライブなどの講習会やシンポジウムの開催といった地域が主体となった取組を展開している。事業の実施に当たっては、企業や団体、行政と連携し、メディアやSNSなどの様々な媒体で情報発信を行う。

毎年段ボールコンポストでの生ごみ堆肥作りの講習会を開催し、出来上がった堆肥を利用して地域ブランド米作りの実験をしている。堆肥を提供された方には新米との交換をして、生ごみの地域循環システムの構築で参加者を増やしている。

地域課題の抽出にあたっては、有識者とともに現地調査や意見交換、住民アンケート調査を実施するなど、地域住民が主体的に参画している。

この地域をモデルとして、「CO₂ネットゼロまちづくり」を宣言する地域もあり、今後も県内の他地域に波及していくことが見込まれる。